

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-1		更新日	2025/1/31
サイト名		たいせきがん 地元堆積岩を積み上げた世界の歴史的灯台百選～美保関灯台 みほのせき			
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他			
	所在地	松江市美保関町美保関1338番17			
	指定別	「美保関灯台 灯台」国指定(指定番号02734)			
	種別	重要文化財			
	指定／登録年月日	2022(令和4)年2月9日			
	管理団体／モニタリング	国(海上保安庁) 松江市 大山隠岐国立公園			
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(台)			
留意点	美保関灯台と附旧レンズ、旧転轍式回転装置、旧吏員退息所、旧第一物置、附便所、囲障、旧日時計が指定文化財				
サイトの解説	歴史・文化	リアス海岸である島根半島の東端、地蔵崎に位置する。地元からの請願や、日清戦争後の海運助成の推進により、明治後期から灯台建設が進捗した日本海沿岸に建つ洋式灯台である。1898(明治31)年に建設された山陰地方最古の石造灯台で、明治初期にプラントンの指導で建設された灯台の形式を引き継ぎながら、日本人技師が設計・施工監理を実施した。旧吏員退息所、旧第一物置、便所、囲障(いしょう)等、当初の施設や構えを残している。山陰地方航路の安全・発展に寄与した灯台として価値が高い。 1998(平成10)年にドイツのハンブルグで開催されたIALA(国際航路標識協会)の総会において、歴史的・文化的価値のある文化遺産として「世界の歴史的灯台100選」に選ばれた。			
	地形・地質、生物・生態等	美保関灯台が建っている地蔵崎には島根半島の最下位層の古浦層が厚く堆積している。主に砂岩層からなるが、流紋岩質の凝灰岩や火山礫凝灰岩層を伴っている。砂岩層は森山石と呼ばれ、美保関灯台に使われるなど石材として利用されている。灯台の門塀にもこの石が使われており、およそ2000万年前の島根半島の様子を語ってくれる。灯台が建てられた1898(明治31)年から125年経過した現在、ほどよく侵食された岩石の表面には水の流れてできた多様な葉理構造が観察され、この場所がかつて淡水の湖につながった河口付近であったことを示している。			
写真・図等				美保関灯台	
参考文献					